

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

No.159
SOUSEI
2012.11

特集：料理家 辰巳芳子さんに伺う
これからの食と寺院



功の多少を計り
彼の来処を量る
（五観の偈）

料理家

辰巳芳子さんに伺う これからの食とお寺

観

光客や修学旅行の学生で賑わう鎌倉駅を離れ、目的地である郊外へ。車から降りて、目に飛び込んできたのは、庭を彩るコスモスの花でした。インタビュを控えて緊張していた私に、ようこそいらっしやいましたと、優しく語りかけるような咲き姿。料理家であり、随筆家としても知られる辰巳芳子先生のご自宅は、木々に囲まれた静かな場所でした。

10年ほど前から、テレビや本を通してそのお言葉に触れ、女性対象の講演会にも一人で足を運んだほど。私にとって、「食」への関心を深めるきっかけを下さった方。今回は料理に向かう心についてお聞きしたく、ご縁に助けられての訪問となりました。

人はなぜ食べなければならないのか

「そうですね、わざわざ島根県からですか。遠いところから大変でしたね。まずはお茶を召し上がって」

応接間で迎えてくださった辰巳先生は、先ほど目にした花のように優しい笑顔。ご挨拶を交わすうちに、自然に緊張をほぐしていただきました。

「食というものは呼吸と等しいもので、生命の仕組みに組み込まれており、風土に即して食べることが大切」

辰巳先生は折りに触れておっしゃいます。

私自身もこの言葉が大変心に残っており、先生の思いがそこに至るまでの経緯を、是非ともお聞きしたいと思っていました。「これは、人はなぜ食べなければならないのか」という、私の長年の疑問から辿り着いた言葉なのです。ところであなたはどっしって食べなければいけないと思われませんか？」

「反対にそう投げかけられて、生きるためだろうか？感謝するためだろうか、と考えてもみなかった問いに言葉を失ってしまいました。そんなこちらの様子を見て、辰巳先生はその戸惑いこそが入口です。すよというようにお話を続けられました。

「たとえばお寺では、食事の際に『五観の偈』のような祈りと感謝がありますね。これは一つの『作りがい』です。しかし家庭では、『いただきます』『ごちそうさま』と言っただけで、美味しくて当たり前、作って当たり前と思われがちです。食事を作ることが人の命を守ることだと分かっているとしても、勉強や運動の積み重ねと違って形として残るものではないですから、毎日の料理が辛くなることもあります。私は人生を料理という行為に傾けるうちに、『人はなぜ食べなければならないのか』という問いを抱えるようになりました。長く考え続けたある日、ふと『食』と『呼吸』の等しい関係に思ったのです」

「何でもないことのように淡々とおっしゃる辰巳先生を前にして、料理家とはまさにこういう方なのだと思える感動を覚えました。その後も辰巳さんは思索を



進め、80歳のときに福岡伸一氏の著作『もう牛を食べても安心か』と出会い、その中でルドルフ・シェーンハイマーの学説に触れたことで、生命に組み込まれた食、という自らの手応えを確かなものにされたと言います。年を重ねてから、あれほど高揚できた自分が嬉しかったと笑う辰巳先生。食は呼吸に等しいという言葉は、これほどまでに真剣に、そして根気強く「食」に向き合ってこられた故に辿り着いた境地でしょう。自分自身も美味しくて当たり前、作ってもらって当たり前と思っ

てはいないかと胸に手を当てました。

いのちのスープは身体の記憶から
辰巳先生の自宅の応接間は、ときに大勢の生徒で賑わうスープ教室になります。「反復することです。3年間を一区切りとする教室を開催されているのです。受講生皆が習熟に励むこのスープは、当時病床にあったお父上のために、同じく料理家であった母・浜子さんと共に作り上げられたもの。日夜、旬の食材を工夫して届けられたスープは、思いが込められた美味しいいのちのスープ」として広く知られるようになりました。その記録とスープが織りなした物語の数々は現在、映画『天のしずく』として全国の映画館で公開されているところですよ。

辰巳芳子（たつみ よしこ）

1924年生まれ。料理家・随筆家。料理家の草分けであった母・浜子のもとで家庭料理を身につける。また西洋料理の研鑽も積み、広い視野と深い洞察に基づいて、新聞、雑誌、テレビなどで日本の食に提言しつづけている。

生きる確信を食を通して伝える
お寺だからできる発信です。



「正しいやり方で作ることで、質素であるにもかかわらず、旨味の豊富なスープができるのです。以前に美味しさの秘密を『味の素さん』が分析に「こられましたけど、加熱すると消失すると言われているグルタミンが、私のスープにはたくさん含まれていて驚いてみました」

辰巳先生のスープの秘密は、調理の仕方と食材の扱い方にあります。食材の切り方、水にさらす時間、鍋の大きさまでが仔細に決められており、特に材料の混ぜ方には他にはない心得があります。ヘラで力任せに乱暴にかき混ぜたりはせず、野菜が裏返って互いに場所を譲りあって火が通るように、規則正しく混ぜるのがいのちのスープの作り方なのです。

「野菜だって鍋の中であっちこちへぶつければいいのは好まないだろうと思って、それぞれの野菜の望みに従って丁寧な混ぜ方をするので。自分でもこの混ぜ方の原点は何かなああと考えてみましたら、それは母が私をお風呂に入れてくれるときの体の記憶なんですね。母の洗い方は日によって違うところがなく、いつも規則正しく丁寧に洗ってくれました。鍋の中の野菜を丁寧に規則正しく混ぜることは、母親の洗い方の再現なんです。親が子を思う愛しさが手を通して私の体に染み込み、時を経て自然に料理になって表れてきたのでしょうか。そしてまた私のスープを学んでくれた人から人へと伝わり、色々な方々がこのスープを喜んで飲むようになったらいいな」



いのちのスープを生み出す辰巳先生の手のひらは、とても温かで柔らかでした。

食を通じたお寺の役割を

「人と人の間に温かさを取り戻すために、是非ともお寺でしてほしいことがあります。それはお味噌汁の作り方や沢庵、梅干などを漬ける場所を作ること。最近の人はお味噌汁を食べなくなりまして、いまの日本の家には沢庵を漬ける大きな樽を置く場所がありません。お寺の広大な空間を開いて下さい。きつと喜ばれると思います。精進出汁で野菜たっぷりのお味噌汁を作ると美味しいですよ。近隣の皆さんと一緒に沢庵や梅干を漬けるのも楽しい。さらには大豆を作ってお味噌作りをしたり、大根作りができれば最高ね。自分たちで作ったものを一緒に食すという、生きるよろこびを『食』を通じて伝えることがお寺にはできると思います。お寺の良い点は、畳があつて膝を譲りあつて座る空間があること。それにとくさんの器もあるでしょう。このお寺という空間を最大限に活かして、昔のように誰でも、どんな時にも行けるようにしよう」

「医食同源」という言葉の通り、栄養学の知識だけでは、この厳しい環境変動に対応することは難しいという辰巳先生。いま、昔ながらの『医食同源』を洗い直すためにお寺の役割は大きいとも。四季や行事に応じた食事をいただく大切さを、

お寺から世の中に伝えてほしいという言葉に、柔らかな手で背中を押していただいたような気持ちでした。

「それと、これからの日本人は、もう一度神仏の慈しみに素直に向き合うことも思い出さなくては。神仏に素直になるということは知性の最たるしるしです。今のインテリは神仏に対して斜に構えていなければという風潮ですから。そのきつかけとして沢庵や梅干、お味噌汁を利用する(笑)。お味噌汁が美味しいなあと思っているときは、インテリっぽいものが落ちて素直になれます。お味噌汁を作りながら、沢庵を漬けながらというのはあくまでも題材。『食』を通して生きることの確信を掴ませてください」

お寺では食材を作ることができる、調理することができる、貯蔵ができる、食すことができる。私たち僧侶には、まだまだたくさん取り組むべき道があるのだと、お寺と食の可能性に気づくことができた得難い時間となりました。

会談の終了後、辰巳先生からのお申し出があり、ご両親の前でお経をあげさせていただきました。読経を終えて汗ばんだ私に差し出されたのは、かぼすを浮かべた涼しげな水。この日のお礼を述べてお暇する我々を、辰巳先生は門までお見送りくださいました。心まで清涼感に包まれた、忘れられないひとときでした。

取材と文／広報委員 西古孝志

辰巳芳子さんのオフィシャルサイト*茂仁香 = <http://www.tatsumiyoshiko.com/>
映画『天のしずく 辰巳芳子 “いのちのスープ”』 = <http://tennoshizuku.com/>



辰巳芳子さんの料理哲学が凝縮した映画 「天のしずく」

料理家・辰巳芳子さんが、病床の父のために工夫を凝らして作り続けたスープは、やがて人々を癒す『いのちのスープ』と呼ばれるようになり、いま、多くの人々が深い関心を寄せています。映画では、スープに使われる食材を作る全国の生産者や、旬の作物を育てる繊細で美しい自然風土、そこで採れた素材の性質を生かし、食材が喜ぶように丁寧に調理する辰巳さん、そしてそのスープを美味しく口に作る幼児や老人たち。それぞれがいのちの響きを奏でていきます。このスープの物語は、辰巳さんが唱える、食を通して見えてくる『いのちと愛』の道筋を示してくれています。

監督・脚本／河部厚徳氏。2012年11月3日より全国の映画館で公開中。

漬物比べでお寺に歓声

北海道北斗市・光明寺の漬物祭り



北海道北斗市の曹洞宗光明寺。このお寺では、成道会法要後に一風変わった光景が繰り広げられる。道南ではポピュラーなニシン漬けから、スイカの漬物や卵の黄身の味噌漬けといった変わり種まで…。約50品の漬物がテーブルに並べられ、参加者が思い思いに味わう。漬物の感想を話し合ったり、漬物のコツをお互いに教え合ったりと、年配の女性たちを中心に話に花が咲く…。

この「漬物祭り」が初めて開催されたのは約5年前のこと。光明寺がある北斗市旧大野町は、北海道米作の発祥の地として知られる農村地区。農協婦人部主催の「漬物品評会」（昭和50年代から約30年間続けられてきた）がルーツである。それ以降も法要の際の台所手伝いの際に、地区の婦人部の方々が漬物を持ち寄って互いに自慢し合ったり、お寺に漬物樽ごと届けてくれたりと、地域の人々にとってもお寺にとっても漬物は大変身近なもの。漬物作りが最盛期である12月の成道会法要が、漬物自慢の場となったのはごく自然なことだったという。

成道会法要は季節のお寺詣りとして、随喜寺院50名、檀信徒約300名で厳修される。法要が終わると、会場には自慢の漬物が続々と持ち込まれる。その際、漬物には名前を貼



らず、一見すると誰の作かわからない。出品者の名前は壁に張り出され、誰から出品されたのかだけはわかる仕組みだ。ただ、富田大輔師（北海道第一宗務所第一教区青年会副会長）と弟である雅実師の漬物だけは名前が貼られ、どちらの漬物がおいしかったかを、多数決で決めていく。この漬物比べは月参りの恰好の話題。お土産として持ち帰ることも可能。「帰ってから家族で食べ比べをして、感想を話し合つのが毎年の恒例なんです」という嬉しい話を聞くこともあるという。

この漬物祭りには、檀信徒だけではなく、誰でも気軽に参加することができる。年代に関係なく参加することができるためか、檀信徒から地域の人々へ、また、高齢の女性から団塊の世代へと、少しずつその縁が広がっている。富田師は、「世代が変わると法要へと足を運ばなくなりますが、イベントをやっているからお寺に行ってみよう」とお寺に来る敷居が低くなったようです。新しいお寺詣り参加者の掘り起しに繋がりました。その手ごたえを語る。さらには、漬物づくりの熱気が法要を盛り上げるようにもなり、負けたくないというライバル心が、参加者の元気の源になっている側面もあるという。今後の課題は、イベントとしての新鮮さ



の維持。「いつも同じ人が出品するのではなく、常に声を掛け合って、みんなが参加できるイベントにしていく」のが目標だと富田師は言う。また、若い世代が持つ「漬物はお年寄りの食べ物」というイメージを変え、若い世代にも足を運んでもらう考えだ。

「気軽に口にする機会を捉えてもらえるよう、チーズの味噌漬けや、乾燥トマトのオリーブ漬けなどの変わりタネにも挑戦している」と、探求に余念のない富田師。「家庭・お寺では、やはり、いただきます、ごちそうさまを徹底しています。また最近、他のお寺さんから言われてあらためて決意したのですが、これから沢山の方々にお伝えしたいのは「生飯」の意味です。生飯の意味を語ることを通して、食事をいただく大切さを伝えていきたい。最近は箸の持ち方を知らない子が多いので、子ども坐禅会などで箸の持ち方を伝えるなどの活動にも取り組んでいきたいです」

今後この漬物祭りを通して、「食を通しての縁」が、お寺から地域へと、また、富田師自身を通して、上の世代から下の世代へとその広がりを見せていくだろう。



ZENSOUSEI 19th

レポート
全曹青

被災地の子どもたちにも夏休みを!!

全曹青・福島子ども保養リフレッシュプログラム開催

山口県曹洞宗青年会

秋田県曹洞宗青年会

四国地区曹洞宗青年会

山口県～福島県子ども禅の集い～



8

月18日～21日にかけて、福島県子ども禅の集いを長門市大寧寺様を拠点に開催いたしました。参加者は18名。関門海峡徒歩横断、洞窟探検、水族館見学、小学校を貸し切ったのプール、手作り縁日、萩焼体験等を企画。参加された保護者の方は、特に手作り縁日に感激してくださいました。

「野外での食事は一体いつぶりだろう」

「今も原発爆発前の古米を食べさせています」

「子どもを思えば、今の土地に留まったのは本当に良かったのかどうか……」

親のストレスが子どもにも伝わっている現状も話

秋田県～白神ふなっこ教室 with ふくしま KIDS～



7

月29日～31日に秋田県北部の世界遺産・白神山地のふもと、藤里町において、白神ふなっこ教室・夏の学校 with ふくしま KIDS が開催されました(主催/ビハール秋田、協力/秋田県曹洞宗青年会、主管/白神ふなっこ教室)。会場は藤琴川が隣に流れる小学校の廃校を利用した施設。猛暑で日差しが照りつける中での開催となりました。

福島からバスで参加したのは川俣町の織姫

太鼓・二本松市の和雅美太鼓 という和太鼓チームの子ども達。加えて地元藤里町の和太鼓チーム 高山太鼓白神会 の子ども達も参加

愛媛県～こども自然ふれあい広場～



愛

媛県上島町において8月19日～23日、こども自然ふれあい広場を開催いたしました。この事業は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故により、未だに放射線被ばくを危惧しながらの生活を余儀なくされている福島県の現状を、前全国曹洞宗青年会会長・久間泰弘師からお話いただいたのがきっかけとなりました。震災から一年半が経とうとしている現在も、放射線被ばくの危険性から、子ども達は屋外活動に時間制限が設定され、子ども達の健全な成長に不可欠な外遊びの場所と時間が確保できない状況です。



してくださいました。また3日目の夜にはレクリエーションとして、境内を使った宝探しをしました。事前にも子ども達には内緒で、我が子に宛てた手紙をご両親にお願いしました。中身に何が書かれていたのかは分かりませんが、ご両親がいかに我が子を大切に思っているか、普段の会話では伝えられなかった気持ち綴られていたのは確かです。涙ながらに何度も読む子ども達を見て、周りにいた我々ももらい泣きました。親子の絆を更に深めることが出来たと実感しています。親御さんは手紙を読む我が子の様子を、涙で直視出来なかつたとの事でしたが、「悲しい涙ではなく感動の涙は震災後初めてです」とおっしゃっていたのが印象的でした。

後日届いた子ども達の感想文にも、「両親がこんなに自分のことを想ってくれていたのを初めて知りました」という感想が寄せられています。他にも今回の企画に際し、ここには載せられていませんが多方面から暖かい気持ち寄せられ、被災地から遠くても多くの方々の気持ちを東日本復興への意識向上に繋げることが出来たのではないかと感じます。



し、総勢は50名でした。初日は秋田名物のだまっご鍋で夕食、また夜にホテル観察に出かけました。2日目は午前中に白神山地のブナ林を散策、午後は水着で川の中に入って川遊びを楽しみました。夜は体育館にて双方の和太鼓チームによる演奏会。地元の人達も見学が集まり、迫力ある素晴らしい演奏に会場は熱気に包まれました。朝は近くの宝昌寺において坐禅、朝課、お粥による小食と、お寺の生活も体験しました。賑やかな子ども達もお寺では神妙に取り組んでいました。

初対面同士の子ども達もすぐに打ち解け、歓声を上げて遊び回っていました。無邪気な笑顔に少し安心しましたが、川遊びの最中に福島の子がもらした「私も秋田に生まれたかった」という言葉を聞き、福島の深刻な現状に胸が痛みました。また2日目夜には全曹青顧問/災害復興支援部アドバイザー・久間泰弘師による講演会も開かれ、会員や一般の方が集まり、福島で生きる僧侶として、また一家庭人としての切実な声に、固唾を飲んで聞き入りました。



今回の事業では、「絆」と「私達に出来ることを」という合言葉を胸に、福島の子ども達を外でのびのびと遊ぶことが出来るようにと企画しました。5日間の行程の中3日間においては、曹洞宗四国管区教化センターにおいて毎年開催されている「こども禅のつどい(禅キャンプ)」を併催し、福島の子ども達と四国の子ども達もふれあい交流を深め合える場となりました。

毎朝のプチ修行体験、プール遊び、海水浴、バナナボート、シーカヤック、ウォークラリー、藻塩づくり体験、すし和様による出張握り寿司、人形劇屋ぶか様による体験型の人形劇やゲーム、海藻ハガキ作りなど。今回の事業に賛同していただいた、プロゴルファーの池田勇太選手にも駆けつけていただき、スナッグゴルフ教室を開いていただきました。

参加した子ども達は、「震災があったから、海に入るのは2年ぶり。久しぶりに泳げて楽しかった」「ゴルフは初めてだったけど、とても楽しかった」と話しながら、元気一杯の笑顔を見せてくれました。

全国曹洞宗青年会の活動は皆様の賛助費に支えられております。
この度ご協力いただき誠に有難うございました。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 279 大徳寺 様 | ●新潟県第3 | 237 円通院 様 | 17 補陀寺 様 | 96 観音寺 様 |
| 321 海応院 様 | 530 花栄寺 様 | 271 願成寺 様 | 79 東林寺 様 | 257 高臺寺 様 |
| 338 長谷寺 様 | 580 賞泉寺 様 | 359 保昌寺 様 | 91 瑞光寺 様 | 327 大宥寺 様 |
| 340 自性院 様 | 646 名立寺 様 | | 96 円通寺 様 | 367 観音寺 様 |
| 347 霊泉寺 様 | 675 禅林寺 様 | ●岩手県 | 104 普門院 様 | 489 龍徳寺 様 |
| 364 竜昌院 様 | 802 十王寺 様 | 12 沼福寺 様 | 126 蚶満寺 様 | |
| 370 日輪寺 様 | | 56 地蔵寺 様 | 154 雲岩寺 様 | ●北海道第2 |
| ●長野県第2 | ●新潟県第4 | 104 広徳寺 様 | 157 香積寺 様 | 180 曹光寺 様 |
| 373 頼岳寺 様 | 19 林照寺 様 | 123 寶城寺 様 | 179 長泉寺 様 | 181 永祥寺 様 |
| 379 瑞雲寺 様 | 117 釈尊寺 様 | 252 柳玄寺 様 | 209 満友寺 様 | 346 永光寺 様 |
| 418 真光寺 様 | 749 蓬林寺 様 | 288 長福寺 様 | 241 安楽寺 様 | 445 竜沢寺 様 |
| 421 青原寺 様 | ●福島県 | 290 長泉寺 様 | 261 見性寺 様 | ●北海道第3 |
| 441 雲竜寺 様 | 41 石雲寺 様 | 312 太永寺 様 | 321 鏡得寺 様 | 196 大康院 様 |
| 536 宗源寺 様 | 45 高国寺 様 | ●青森県 | | 217 法龍寺 様 |
| 544 一心寺 様 | 79 西松寺 様 | 15 梅林寺 様 | ●北海道第1 | |
| 603 長性院 様 | 101 成林寺 様 | 19 宗徳寺 様 | 13 曹溪寺 様 | |
| ●福井県 | 110 竜徳寺 様 | 28 宝泉院 様 | 39 正覚院 様 | |
| 69 竜門寺 様 | 113 円照寺 様 | 100 澄月寺 様 | 94 曹源寺 様 | |
| 197 洞源寺 様 | 121 長泉寺 様 | 122 法林寺 様 | | |
| 232 長泉寺 様 | 167 澄江寺 様 | 158 見性寺 様 | | |
| 268 幸松寺 様 | 174 龍穩院 様 | 189 乗照寺 様 | | |
| 272 洞善寺 様 | 226 常隆寺 様 | | | |
| ●富山県 | 246 長徳寺 様 | ●山形県第1 | | |
| 103 長久寺 様 | 265 法輪寺 様 | 113 洞興寺 様 | | |
| ●新潟県第1 | 277 海嶽寺 様 | 212 青松寺 様 | | |
| 313 楞嚴寺 様 | 310 観音寺 様 | 241 福昌寺 様 | | |
| 340 円福寺 様 | 340 慶徳寺 様 | | | |
| 358 円光寺 様 | 370 秀長寺 様 | ●山形県第2 | | |
| 380 妙雲寺 様 | 373 泰雲寺 様 | 272 蓬萊院 様 | | |
| 389 雲居寺 様 | 374 常德寺 様 | 322 洞松寺 様 | | |
| 412 甌洞庵 様 | 377 宝積寺 様 | 377 東源寺 様 | | |
| 460 竜谷院 様 | 381 宗英寺 様 | | | |
| 473 雲洞庵 様 | 446 天宗寺 様 | ●山形県第3 | | |
| 477 竜泉院 様 | ●宮城県 | 623 歓喜寺 様 | | |
| 500 観泉院 様 | 16 林香院 様 | 676 龍泉寺 様 | | |
| 512 實相庵 様 | 35 竜雲院 様 | | | |
| | 59 清水寺 様 | ●秋田県 | | |
| | 212 祥雲寺 様 | 3 蒼竜寺 様 | | |
| | | 8 天竜寺 様 | | |

ボランティア基金感謝録

平成24年6月1日～8月31日取扱分

宗教者災害支援連絡会 様
 兵庫県第二宗務所青年会 様
 北海道 大覚寺 様
 青森県 石岡大乘 様
 茨城県 仏具店「健昭」 大里昭二 様
 千葉県 満蔵寺檀信徒 高橋信之 様
 東京都 長泉寺檀信徒 吉田京子 様
 東京都 青松寺 様
 静岡県 定輪寺檀信徒 杉山はな子 様
 三重県 四天王寺檀信徒 矢川つや子 様
 兵庫県 東林寺 様
 熊本県 岩崎哲秀 様

(順不同)

※ホムペーから注文いただけます



信は道徳の元
功徳の母なり
30
好評発売中

体裁 364mm x 125mm
リング式・カラー・英訳付
価格 210円 (税込)



著者 青山俊重師

●「八正道シリーズ」創刊。第一巻目は正見、正しい見方です。

●一日一頁の31の文書を、豊富な経験からやさしく読み明かしていただきました。

●体裁を新たに文字を大きく、ルビを増やし、さらに読みやすくなりました。

●お彼岸、お盆をはじめ、各種法要等でご活用ください。

「みちしるへ八正道シリーズ 正見・正しい見方」

一日一頁カレンダー 紙製本 最新刊

価格 210円 (税込)

財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
http://www.bdk.or.jp E-mail: bdk@bdk.or.jp
Tel: 03-3455-5851 Fax: 03-3798-2758

贊助費淨納御芳名簿

平成 24 年

6/1 ~ 8/31 取扱分



●東京都

30 豪徳寺 様
 57 功雲院 様
 81 長光寺 様
 88 全龍寺 様
 105 鳳林寺 様
 106 観泉寺 様
 177 清巖寺 様
 232 薬師寺 様
 235 金光寺 様
 258 東光寺 様
 299 龍津寺 様
 333 雲慶院 様
 345 正法院 様
 356 宝蔵寺 様

●神奈川県第 1

285 泉秋寺 様

●神奈川県第 2

2 西有寺 様
 36 円福寺 様
 127 寿昌寺 様
 131 乗福寺 様
 中野東禅 様

●埼玉県第 1

87 正傳寺 様
 200 清岩寺 様
 417 源勝院 様

●埼玉県第 2

256 豊泉寺 様
 271 龍泉寺 様
 334 安楽寺 様

●群馬県

3 龍海院 様
 89 龍昌寺 様
 167 祥雲寺 様
 194 善宗寺 様
 231 泉福寺 様
 267 宗泉寺 様
 281 永隣寺 様
 285 桃林寺 様
 333 大雲寺 様

●栃木県

69 慶翁寺 様
 92 泉溪寺 様
 106 實相院 様
 116 正慶寺 様
 161 東陽院 様
 166 正慶寺 様

●茨城県

160 定林寺 様
 182 龍心寺 様
 197 長竜寺 様

●千葉県

21 観音寺 様
 29 慶林寺 様
 95 寶應寺 様
 159 宝聚院 様
 272 永泉寺 様
 315 雲龍寺 様
 320 瑞岩寺 様
 357 永福寺 様

●静岡県第 1

61 長光寺 様
 83 洞福寺 様
 92 龍泉寺 様
 109 玉泉寺 様
 126 一乗寺 様
 152 宝持院 様
 161 庚申寺 様
 394 萬松院 様
 421 盤脚院 様
 463 栄昌寺 様
 464 正泉寺 様
 495 普門院 様
 553 大永寺 様

●静岡県第 2

228 耕月寺 様
 325 海蔵寺 様
 329 永昌寺 様
 362 福泉寺 様

●静岡県第 3

676 孤雲寺 様
 831 正林寺 様
 962 正醫寺 様
 1273 東林寺 様

●静岡県第 4

1095 天林寺 様
 1129 隨縁寺 様
 1177 礼雲寺 様

●愛知県第 1

17 光明院 様
 18 大運寺 様
 62 菊泉寺 様
 82 成福寺 様
 96 全隆寺 様
 111 龍興寺 様
 119 盛屋寺 様

133 瑞泉寺 様
 139 祇園寺 様
 166 東陽寺 様
 293 康勝寺 様
 306 成福寺 様
 313 長松寺 様
 336 弥勒寺 様
 635 永澤寺 様
 638 東昌寺 様
 1047 薬師寺 様
 1095 薬師寺 様
 1191 智光院 様

●愛知県第 2

723 西漸寺 様
 827 西福寺 様
 927 春興院 様

●愛知県第 3

431 報恩寺 様

●岐阜県

108 玄霜寺 様
 240 林陽寺 様

●三重県第 1

15 養泉寺 様
 24 一心院 様
 37 四天王寺 様
 83 涼泉寺 様
 169 久安寺 様
 188 広泰寺 様
 240 安心寺 様
 278 大智院 様
 284 常安寺 様
 351 雲祥寺 様

●三重県第 2

371 光明寺 様
 408 東正寺 様

●滋賀県

160 長谷院 様

●京都府

3 源光庵 様
 26 岩屋寺 様
 46 栄春寺 様
 161 禅福寺 様
 236 善光寺 様
 374 等楽寺 様
 389 萬福寺 様

●大阪府

12 印山寺 様

28 法華寺 様
 49 崇徳寺 様
 56 南昌寺 様
 61 大広寺 様
 68 陽松庵 様
 70 無二寺 様
 98 吉祥院 様
 109 法蔵寺 様

●和歌山県

10 窓誉寺 様

●兵庫県第 1

79 常福寺 様
 287 向榮寺 様
 302 月照寺 様
 370 明善寺 様
 393 安養寺 様
 399 医王寺 様
 403 善福寺 様

●兵庫県第 2

173 瑞雲寺 様
 221 永源寺 様
 292 乗雲寺 様

●岡山県

4 威徳寺 様
 29 大通寺 様
 166 善福寺 様

●広島県

27 清光寺 様
 46 雙照院 様
 86 西金寺 様
 102 潮音寺 様
 181 東明寺 様

●山口県

72 真福寺 様
 145 久屋寺 様
 197 大覺寺 様
 213 高林寺 様
 250 雲照寺 様

●鳥取県

1 興雲寺 様
 17 普含寺 様
 22 隣海院 様
 45 禅福寺 様
 54 東昌寺 様
 81 大岳院 様
 134 精明寺 様
 156 福嚴院 様
 163 雲光寺 様

●島根県第 2

45 禅覚寺 様
 63 龍覚寺 様
 66 浄心寺 様
 140 法蔵寺 様
 146 観知寺 様
 159 源入寺 様
 178 長寿寺 様

●愛媛県

34 本光寺 様
 91 安楽寺 様
 113 西禅寺 様
 146 興雲寺 様

●福岡県

158 報恩寺 様

●大分県

8 豊音寺 様
 48 宗玄寺 様
 118 金龍寺 様
 134 長安寺 様

●長崎県第 1

2 菩提寺 様
 8 円福寺 様
 26 鏡円寺 様
 78 宝泉寺 様

●長崎県第 3

101 南明寺 様

●佐賀県

14 高伝寺 様
 70 種福寺 様

●熊本県第 1

8 雲巖寺 様

●熊本県第 2

79 向陽寺 様

●宮崎県

38 観音寺 様
 49 如法寺 様
 64 円南寺 様

●長野県第 1

38 耕雲庵 様
 49 信叟寺 様
 86 円福寺 様
 123 真蔵寺 様
 147 徳応院 様
 235 満龍寺 様

聴く禅

第六回 仏教とメタ認知

広報委員会委託委員 青野貴芳

七、八年ほど前になると思いますが、とある摂心会に参加したときのことで。初日からたいへん調子がよく、意識が冴えに冴え、妄想の出る隙もないほどでした。形になる以前の妄想のエネルギーがもともと蠢いているのはよく分かりましたが、念の力によって完璧にガードできていました。妄想は出ていなくても、まったく寂靜ではないのですが、暴れ馬をうまく乗りこなしているような感じでした。

さて、独参の時間になりました。老師は「どうですか」とお尋ねになりました。それに対して「この摂心が終わったら、どういうことに注意すればよろしいでしょうか」と私は質問しました。すると老師は、「ほら！もう妄想に走っている。今ここに集中するのが、今のあなたのやることでしょうか。なんで未来のことを考えているんですか！」とおっしゃいました。ああ、しまった!! 「横面を張られたような」とはまさにこのような気分のことでしょう。まったく油断というのは恐ろしいものです。いつの間にか妄想に頭を占拠されて、失念状態になってしまっていたんですね。それにしても、手練とか方便力というのは凄いものだなあと感服しました。短いやりとりでしたが、私にとっては忘れられない一喝です。こんなカミソリのような接得は、鈍い私には無理かなあ……。

1、仏教とメタ認知

さて、今回は「仏教とメタ認知」というサブタイトルを立てました。坐禅とメタ認知の関係については、すでに述べたところです。しかし、坐禅に限らず、仏教全体においてメタ認知の役割は重要と思います。

拙論のテーマに即して言うなら、老師は相手の認知状態のメタレベルを見ておられたのでしょう。そして、その問題点を、瞬時に、見事に抉り出してみせて下さいました。そして、私もまた自分の認知状態についてメタ認知することができたといえます。ちなみに、他者の認知状態を認知するのもメタ認知の一種です。また、認知状態の分析・評価もメタ認知モニタリングの機能に分類されるので、上記の「相手の認知状態のメタレベルを見る」のもメタ認知の一種だと言えます。

2、六十二見について

ここでメタ認知について簡単にござらいしておきますと、まず「認知の認知」と定義されます。その治療的機能を表す言葉として、安藤治氏がいくつかりストアップしておりますが、「脱中心化」「脱同一化」「脱埋没化」等の造語があるようです。つまり、メタ認知によって、妄想に囚われた状態から脱却できるということです。また、メタ認知は、仏教語の「念」という認知操作に相当します（ただし、念は、妄想から引き離すだけでなく、智慧の生起にも関与してくると思えます）。

まず、パーリー聖典の『梵網経』に出てくる六十二見をとりあげます。六十二見とは仏教以外の教えのことで、同経の中で批判されています。どのように批判されているかというと、

それぞれの見解そのものの真偽よりも、その見解を主張する人の認知状態に（その見解への）執着があることを問題としています。六十二見は、結局のところ無明にもとづいているので、十二支縁起の理路に従って執着を必ず生じることです。つまり、お釈迦様は、六十二見をメタレベルで見（メタ認知して）批判していることとなります。

六十二見は、仏教以外の教えと書きましたが、瞑想によって到達する様々な境地に対応する見解も含まれており、これらは仏典でも説かれています。しかし、涅槃に到達する以前のどこかの境地に滞ってしまつては、執着を離れられないということになります。執着を離れるためには、ひたすら念じ続ける、すなわちメタ認知し続ける必要があるようです。それはまた、自らの立場を空じていくということでもある



青野貴芳（あおの きほう）
1970年静岡県生まれ。東京大学大学院満期退学。大本山永平寺、宝慶寺にて安居。現在、養雲寺副住職、中里保育園園長、愛知学院大学・富士市立看護専門学校非常勤講師、全曹青広報委員会委託委員。

あるなしにこだわってるな…

ない!!

ある!!



でしょう。

3、キサーゴータミーの話について

次に、仏典に出てくるキサーゴータミーの話に挙げます。ご存じの方も多と思うので、話の概略のみ記します。我が子を亡くした母親が、子どもを生き返らせようとしてお釈迦様のもとを訪ねました。お釈迦様は、誰も亡くなったことがない家からケシをもらってきたら子どもを生き返らせると約束します。そこで母親は条件に合うケシを求めて狂奔しますが、結局目的を果たせませんでした。しかし、この母親は、ケシを求める過程で誰もが必ず死ぬことに気づき、子どもを生き返らせることを諦めました。

何とも切ない話ですが、お釈迦様の使った方便について考えてみます。命を失った者が生き返らないのは明白な道理ですが、妄見・妄情に囚われている母親には通じないと見てとったのでしょう。ここに、お釈迦様が母親の認知状態をメタ認知していたことが分かります。

そこで、お釈迦様は母親に課題を与えました。母親は、その課題に取り組む過程で、自分の認知状態を客観的に見られるようになり、子どもが亡くなったことを、なんとか受け入れることができたということになるでしょう。いわば、お釈迦様は、この母親をメタ認知に導いたと言っていると思います。

4、おわりに

以上に見たように、仏教では、自身をメタ認知し、他者をメタ認知し、また人々をメタ認知に導くことが重要なことですが、苦からの解脱をもたらすのは、形而上の真理ではなく、自らの認知態度です。最後に、少々卑俗な話ですが、メタ認知にまつわる私の経験をお話しします。

20年近く前になりますが、ある語学学校の3カ月コースに通ったことがありました。その学校の同ヒクラスに、とても艶やかな年上の女性（Aさんとしておきます）がおりました。私の学生時代はバブル絶頂期とちょうど重なっていましたが、私自身は、バブルの華やきなどいたって無縁な冴えない学生生活を送っていました。一方のAさんたるや、まさに時代のど真ん中でバブルと踊ったであろうナイト&デイの余韻嫋々たる佳人でありました（すでにバブル崩壊後でした）。掃き溜めに鶴の例えの如く、私の生活圏内には本来ありえない人であり、口をきくのも憚られました（勝手に憚っていたわけですが）。

最後の授業の日、Aさんはものすごく疲れた様子で教室に現れました。精神的にローな状態に滞留しているといった風情です。

「どうしたの？」「元気出しなよ」
教室の仲間は口々にAさんを励まします。

ます。でも、Aさんは「ありがとう。でも、今日はちょっとだめみたい」などと力無く言うばかりでした。私も何か言わなくてはと思い、咄嗟に出てきた言葉がこれ。

「柳の下の幽霊みたくだね」

その途端、なぜかAさんは大爆笑しはじめました。え、そんなに面白かった？と我ながら唾然としましたが、Aさんはお腹を抱えて笑い続けています。ようやく笑いが収まってきたAさんの顔には、明らかに先ほどは見られなかった精彩が戻っていました。

授業が終わったあと、Aさんが私のところにやってきました。

「さっきは有難う。青野君のおかげで戻ってくれた」

そう言って、Aさんは去っていきました。私だけに向けられた微笑の残像と粉黛香る微風の感触を残して。こんなことがあったわけですが、今思い返してみると、私の言葉はAさんをメタ認知に導いたと解釈できるでしょう。ちよつと茶化したようなセルフ・イメージをメタレベルで認知することにより、「元気のない状態」への囚われから脱却できたのだと思います。

それにしても、Aさんは今頃どうしているのかなあ……。私的な思い出で失礼しました。

06 Air Mail 海外ZEN通信

ヨーロッパ国際布教総監部庶務担当／釜田尚紀



ドイツ・デュッセルドルフ禅道場に集まる人々

"Moine bouddhiste" n'est pas un métier (僧侶は職業ではありませんよ)

秋を迎え、パリにも長いバカンスを終えた住人たちが戻ってきました。僕が夜間通っている語学学校も2ヶ月間のお休みを終え再始動、そろそろまた気を入れ直して頭の痛くなるフランス語のお勉強を始めないと。僕らには長いバカンスはないけれど、なんとなくフランス人の秋の憂鬱は共有できるような気はいたします。

さて前回ふれたように、今回はヨーロッパの寺院や道場に集まる人々についてフォーカスしてみたい。

そもそも彼等は僧侶なのか、在家信者なのか、という疑問を提示したと思う。実際のところはその道場や寺院の運営方針によってその定義付けや捉え方にバラツキがあるし、それによって同じく「自分は僧侶です」と宣言している人でも、その修行の取り組み方や意識は全く異なる。

例を出してみよう。たとえば次のような人をあなたは僧侶と捉えるか、それとも在家信者だと感じるか？

- ①お寺に住まず、毎日近所の道場やお寺へ通う。
- ②道場やお寺では坐禅、勤行を行う。
- ③日中は会社勤め。
- ④家族を持っている（恋人がいる）。
- ⑤有髪である。
- ⑥夏のバカンスはお寺のサマーキャンプ摂心に参加する。

さてどうだろう。日本の仏教信者を檀信徒と参禅者・参学者に大別するなら、条件に当てはまるのはやはり「参禅者」と呼ばれる人たち（しかも熱心な）だと思う。⑥を「毎年臘八摂心に参加、などと変えればぐっと想像しやすい。

でも僧侶とはちょっと言いにくい。ちなみに一般的な日本の僧侶の条件というのも定義が難しいが、大衆が持つイメージと言うなら「お寺に住み、剃髪して、衣を着て、葬儀法事を司る職業の人」といった項目が挙げられるのではないだろうか。ヨーロッパの話をしているので、わざわざ日本でのイメージと比較する必要はないのだが、もしその条件ならばヨーロッパで僧侶になることは非常にハードルが高くなる。剃髪は特に女性には囚人のイメージがあるので難しいだろうし、町中で法衣を着ていればコスプレと間違えられたりするだろう。人が住めるほどの大きなお寺

の数も限られているから、とうていお寺に住むことはできないし、葬儀法事をする機会もほとんどない。だから僧侶であっても、その修行内容や見た目は、日本の熱心な参禅者とほとんど変わらないのが、ヨーロッパの実状である。そして檀信徒と呼ばれるような信者はほぼ存在しない。

ちなみに話は変わるが、僕の通う語学学校では1ヶ月ごとにクラスが変わる。だから新しい先生や仲間に自己紹介をすることが多いのだが、いつも職業を聞かれるたび困ってしまう。前はあまり気にせずに「仏教の僧侶です」と答えていたのだが、あるとき先生に「へー、でも僧侶は職業ではありませんよ ("Moine bouddhiste" n'est pas un metier)」と言われて、ハッとされた。僧侶、とは自分の信仰の一つの表現であり、けっして生きるための仕事 (metier) ではない。改めてヨーロッパ人の宗教観を感じさせられた瞬間だった。つくづく信仰が職業化していない(できる土壌がまだない) 点で、ヨーロッパの仏教は純粹だと思う。そして彼等に通底しているのは坐禅を日々の生活の中で活かそうとしている点である。

ただ実のところ、ヨーロッパにも出家僧侶と在家信者の区別は存在する。これは日本から持ち込まれたものなのだが、とくに弟子丸師の AZI (国際禅協会) の流れを汲む道場の多くでは得度式に在家得度と出家得度の区別をつけている。その差は、本人の希望や力量、修行年数を考慮してのものであったりする。また本人が出家したいといっても師匠が許さない場合、第一段階として在家得度を受ける人もいる。ただし先に言ったとおり、出家得度したといったら修行内容が格段在家の参禅者と異なることはなく、実質的な意味での境界線引きは難しい (お寺によってはお寺に寝泊まりしての修行や一定のプログラムを終了する必要があったり、お袈裟として在家信者は絡子、出家僧侶は七条といった差があるところもある)。

このようにヨーロッパでは、「道場、での参禅、という運営スタイルが布教の下支えとなっており、表面上の出家僧侶と在家信者の区別はぱっと見えてこない。ただ実務を担当するヨーロッパ総監部としては、曹洞宗の僧籍に正式に登録している人を僧侶としてカウントし、その寺院・道場に集まる人々については「メンバー、という呼称を使い数えたりしている。

被災地の声受け、アートベンチを贈呈 釜石市シープラザ遊テントで式典

平成24年8月22日釜石市シープラザ遊テント内においてアートベンチの贈呈式が行われました。この企画は「人と人とが集まり、寛げる場所が欲しい」という被災地の声を伺って、アーティストである嘉住直実教授（シアトル大学芸術学部、ビジュアルアート／デジタルデザイン科）と全曹災害復興支援部が立案し進められました。当初、お盆明けに完成し、贈呈式が執り行われる予定でしたが、制作行程を進めていく中で、子ども達の安全性や設置場所の確定などの事情により延期されました。しかしながら、松草塗装工業株式会社代表取締役、伊藤公一氏より塗料や刷毛を寄付して頂き、釜石市の臨時職員さんたちによる仕上げ作業や色塗りのご協力もあり、素晴らしい作品と一緒に完成する事が出来ました。

贈呈式では市役所の清野市民生活部長、及川主幹兼都市計画係長、大久保地域づくり推進課長、小池仮設住宅運営センター所長ご列席の元、また釜石はまゆり飲食店会より山崎会長も駆け付けられ、「素敵なベンチを贈呈していただき、多くの市民が寛いでくださるのではないかと御礼のお言葉を述べられました。嘉住先生も「ベンチの赤い色は釜石の象徴である“鉄”をイメージしました。

鉄の持つ力強さがベンチに宿り、何年も残していただけるとうり難いです」と清々しい表情でお話しされました。

また、同時に、釜石市尾崎白浜地区に社会福祉協議会が設置している農園「尾崎白浜ファーム」、及び、鶴住居地区栗林の「栗林ファーム」に既製のベンチを寄贈いたしました。尾崎白浜では設置予定地に敷かれていたコンクリートを除去し玉砂利を敷き詰めの上で、ベンチ3台を設置。更に近所のマリコ商店さんからもご要望があり1台を寄贈。栗林ではウッドデッキを作製し、2台のベンチを設置いたしました。



現代に合った創造的な坐禅論 藤田一照老師著「現代坐禅講義」



藤田一照 著 佼成出版社刊
2,500円（税別）

現代 曹洞宗国際センター所長の藤田一照老師には、平成20年度の禅文化学林においてご講演をいただいた。その際に藤田老師は「アメリカでは日本の曹洞宗は「Zazenless Zen（坐禅のない禅）」と揶揄されている」と紹介され、「今後「Zazenful Zen（坐禅がいっぱいの禅）」の方向に事態を変えていく工夫・努力として、現代に合った新しく創造的な坐禅の脚注が必要だ」と説諭された。藤田老師の新刊は、正にその時の説諭を形にされたものである。巻頭にパスカルの『パンセ』の一節を用いたのは、雑誌『プレジデント』（10/29号）において、南直哉師と島田裕己氏が指摘した「現代の仏教は西洋の思考で再構築されている」という問題点を解体するための構成と言えるし、坐禅を「くつろぐ力、ネガティブ・ケイパビリティ、消極的な「しない力」、やめる力」と解説されたことは、現代メディアの寵児とも言える仏者・小池龍之介師の話法とも通底する。山川江海を隔てず、世事と間近に生きる現代の学人必携の書である。

全曹青副会長 板倉省吾

未だ癒えぬ悲しみの深さを痛感 宮城県石巻市慰霊行脚に参加して

去る9月15日、宮城県曹洞宗青年会が主催して行われた慰霊行脚に参加させていただきました。全国より多数の曹青会員も駆け付け、3班に分かれて市内を2時間ほど歩きました。被災から一年半が経過していますが、津波に破壊された建物が随所に見受けられ、瓦礫や廃車の山もあり、復興への遠い道のりを感じました。また、沿道より手を合わせてお見送りくださる市民の方々とはすれ違うたび、癒えぬ悲しみの深さを痛感致しました。慰霊法要も石巻港の特設会場にて厳修され、大勢の参列者と共に震災物故者のご冥福をお祈りしました。

全曹青庶務兼復興支援部事務局員 伊藤和貴



各管区加盟団体紹介 「北信越管区」

●新潟県曹洞宗青年会

当会は昭和54年に発足し、現在、新潟県全域より136名の宗侶が正会員（45歳以下）として参加・在籍しています。毎年研修会を開催しておりますが、平成23年度は全曹青刊行『洞上僧堂清規行法鈔』をもとにした僧堂研修会を修行しました。東日本大震災をはじめ、度重なる災害にあたっては炊き出しや行茶活動などのボランティアに組織的に参加しております。その他に、使用済みローソク回収・再利用事業を平成13年より実施・継続中で、福祉施設での障がい者就労支援事業のサポートを行っています。

新潟県曹洞宗青年会会長 寒河江文洋

●曹洞宗石川県青年会

当会は正会員十数名といった非常に小規模な団体で、OB・県内御寺院様の力をお借りしながら禅のつどい他、研修活動等を開催しています。平成19年の能登半島地震では多くの青年会、宗門御寺院様のお力を

お借りしながら、2年間被災地での行茶を行って参りました。その経験を生かし、東日本大震災でも被災地へ外向き活動させていただきました。今後も会員一同人に寄添い、支えとなる頼もしい僧侶を目指し、日々精進してまいります。

曹洞宗石川県青年会会長 澤井隆志

●福井県曹洞宗青年会

大本山永平寺のお膝元、福井県曹洞宗青年会は総勢28名で活動しています。現在は昨年の東日本大震災へのボランティアを目的に、義援金を集めるための托鉢を年数回行なっております。托鉢に関しては、県内御寺院様、地元の方々のご協力で多額の義援金をいただきました。

その他の活動は勉強会や宗務所の大きい行事のお手伝いなどをおこなっております。会員の皆様からご助力をいただき、精力的に活動しております。

福井県曹洞宗青年会会長 池野徳明

●曹洞宗長野県第一青年会

当会は昭和44年に発足し「青年僧侶としての自覚に基づき宗意を昂揚し、会員相互の研修を深め時代社会に貢献する」事を目的とし、108名で活動しております。

現在はボランティア、法式研究、布教研究、坐禅会研究、各種・人権研修の5委員

会で構成され、会員はどれかの委員会に所属し、各委員会により年度計画が企画され、全会員により実施されております。尚、昨年よりホームページを開設し、運用しています。

曹洞宗長野県第一青年会会長 櫻井利行

●曹洞宗長野県第二宗務所青年会

曹洞宗長野県第二宗務所青年会は、会員60名で活動しております。任期を2年とい

「近畿管区」

●近畿管区

近畿管区は2府4県から構成されております。各青年会では坐禅会、托鉢また諸法要の研鑽、布教活動やボランティア等、多岐にわたり活動しております。そして年に一度の親睦スポーツ大会を含めた諸行事にて連携を図っております。地域によっては少子高齢化や過疎化の影響で、青年会活動そのものが困難な会員もいるのが実情ですが、諸先輩方の法灯を後世に伝えるべく、今後ますます各青年会が連携を深め、共に

たしまして、会長、副会長、庶務、会計、幹事、教養部（研修会など担当）、文化部（会報の発行）、厚生部（研修旅行など）、情報部（会員名簿の発行）、ボランティア部（バザーの手配、災害情報収集）理事で組織します。一番大きな行事は、諏訪よいてご祭りに出店するバザーです。収益金は災害支援金などへ送金しております。

曹洞宗長野県第二宗務所青年会会長

小池孝道

弁道精進し、近畿の地の利を生かした活動をしてまいります。どうぞよろしくお願ひします。

近畿管区理事 森孝基

●滋賀県曹洞宗青年会

曹洞宗滋賀県宗務所は、琵琶湖を取り巻く様に全11教区から成り立ち、その傘下としての滋賀県曹洞宗青年会は、現在会員21名で構成されております。年間行事といたしましては、特に、比叡山横川道元禅師得度の他、清掃及び琵琶湖湖岸清掃を毎年行っております。得度清掃は、宗務所行事として、毎月各教区を割り当て、教区（僧侶・寺族）・教区護持会（檀信徒）が集い、清掃及び報恩諷経が永年継続されており、

青年会は毎年12月雪降る中拝登し、清掃・
諷経・塔婆の整理など行っております。

塔婆を整理させていただきますと、毎年
全国各地より、両本山・宗務所単位・教区
単位・寺院単位・各種団体単位にて拝登さ
れておられることが伺えます。又、湖岸清
掃は滋賀県青年会としてグリーンプランの
一環として、取り組んでおります。

滋賀県曹洞宗青年会会長 竹内昭道

●京都曹洞宗青年会

当会は京都府内の40歳までの僧侶、一般
青年を会員に構成し、1泊2日にて開催す
る緑蔭禅の集い・秋冷禅の集い、車イス競
争駅伝大会の運営、托鉢によるSVA図書
箱寄贈、法要研修会、災害ボランティア活
動等を通して、僧侶としての研修・社会貢
献に勤めるべく活動しております。

今年度は創立50周年を迎え『ぜんしんく
禅心く前進』をテーマに掲げ、『報恩坐禅会』
(6月緑蔭・禅文化学林、12月秋冷)、坐禅
に気軽に親しんでいただく機会として『坐
禅かふえ』を毎月開催しております。又、
ラオス上座部仏教との交流・得度し安居す
る『上座部仏教安居研修会』、京都府下全
寺院を拝登する『報恩拝登』、坐禅会教本
法式研修DVD、記念誌の発刊など、様々
な周年事業を自覚覚他の報恩行に道念を燃
やし、会員一丸となって取り組んでいます。
今後も更なる向上心と青年僧らしさを大切
に活動をすすめてまいります。

京都曹洞宗青年会会長 松本亮道

●大阪曹洞宗青年会

当会は、若僧会という会を前身に昭
和39年に発足し、来年には創立50周年を迎
えます。現在の会員数は約50名です。会員
相互の向上を計ると共に、夏休みを利用し
ての子ども禅の集いと、秋に檀信徒の
皆様をお誘いして信仰を培う祖跡巡拝
を二大行事と位置づけて、活動を行ってお
ります。

法式研修(三仏忌法要等)や、AED講
習等で研鑽を積み、災害時には様々な形で
のボランティア活動も継続して行っており
ます。変わらぬものの価値を見失わず、青
年僧侶だから出来る活動をこれからも邁進
していきたいと考えております。

大阪曹洞宗青年会会長 田伏公英

●奈良県曹洞宗青年会

奈良県曹洞宗青年会は、奈良県宗務所管
内に僧籍を有する青年僧侶で構成されてい
る団体で、「発心と共生活動を目指して」
をスローガンに掲げ活動しております。法
式研修・子ども緑蔭禅の集い・歳末助け合
い托鉢を3本柱として、主に活動しており
ます。

また、被災地へのボランティア支援活動
も継続していく所存であります。今後とも
ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお
願い申し上げます。

奈良県曹洞宗青年会会長 浅井和生

●和歌山県曹洞宗青年会

当会は和歌山県宗務所管内の50歳以下の
僧侶を対象とした会です。管内寺院は約
70ヶ寺と少なく、さらに正住職にいたって
は40人程度しかいません。この様な中で10
数名の会員で25年にわたって活動をしてま
いりました。今後も1泊2日の子ども坐禅
会や托鉢などを通じて、会員相互の親睦を
深める趣旨はそのままに、小さな会だから
こそその視点を大事にして、俊敏性を生かし
た活動を続けてまいります。

和歌山県曹洞宗青年会会長 下路光淳

●兵庫県第二宗務所青年会

17年前、阪神淡路大震災は神戸市を中心
とする阪神地方に甚大な被害をもたらしま
した。その時、但馬、丹波、篠山で活動し
ている各青年会は現地に赴いてボランティ
ア活動を行いました。管内三曹青は次第に
意気投合するようになり、兵庫県第二宗務
所青年会が結成されました。

当青年会は、毎年1月17日に阪神淡路大
震災慰霊法要を行う他、托鉢やボランティ
ア活動等を通して自己の研鑽と修養につと
めていきます。今後とも精進を積み重ねてま
いりますので、倍旧のご指導ご鞭撻を賜り
ますようよろしくお願いいたします。

兵庫県第二宗務所青年会会長 佐々木圭秀



守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震

株式会社 **カナメ**
http://www.caname-jisha.jp

- 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300
- 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882
- 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541



事務局

■大久保厚志事務局長



19期も残すところ半年となりました。既に家族の理解（諦め？）も深まりつつある今日この頃です。出かける際の「また行くの？」「今度はどこに行くの？」「お父さんだけ出かけていいなあ」という子供たちの声援（苦情？）を背に、良きご縁をいただいた仲間たちと、限られた任期を実直に勤めさせていただきま

全うし皆様と互いに努力精進していききたいと思います。

■里野和敬庶務



四国地区曹洞宗青年会より参加しております。全曹青では様々なご縁をいただき、有難く思っております。19期も残り少なくなりましたが、まだまだ良いご縁があると思っております。そして、この良縁や経験を盛り上げていきたいです。残り少ない期間、皆様と共に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願

■久賀一興庶務



佐賀県曹洞宗青年会から参加させていただきます。久賀一興です。松岡会長をはじめ様々な地域で活躍する先輩方や仲間との出会いに

より、多くのことを学ばせていただきました。全曹青での活動を通じて得た知識や経験は、今後の私にとってきつと貴重な財産となることでしょう。この勝縁に感謝し、全曹青の更なる発展の一助となれますよう、微力ではありますが残された任期を精一杯勤めさせていただきます

いたします。よろしくお願

■伊藤承章庶務



庶務として執行部に参加させていただいて一年半、自分にとっては大変ありがたい財産になっています。松岡会長をはじめ、多くの方々が熱い想いで活動されています。このような活動を通じて全国の各曹青会がつながりを持っていく、そして有事の時にはそれぞれがお互いに助け合う。今までは地元の曹青会のことしか関心がありませんでしたが、全国がつながることの素晴らしさを実感しています。

■城市泰紀庶務



石見曹洞宗青年会より18期広報委員を経て、引き続き参加させていただきます。残り少ない任期を全力で精進

■長澤文雄庶務



第19期庶務の長澤文雄と申します。京都曹青会より参加し、全曹青の庶務という大役をいただきました。本年は私が所属する青年会が、創立50周年の年を迎え、禅文化学林併催での基調講演など様々な記念事業が行われた為、会議に中々出席する事が出来ず、執行部の皆さまには大変なご迷惑をお掛けして

■近藤光俊庶務



全曹青庶務の任をいただき一年半が過ぎました。その中でも昨年の尾瀬こども自然ふれあい広場、また今年の山口子ども禅の集いに参加させていただいたことが記憶に残っています。各曹青会、復興支援部の皆様との綿密な準備のもと、子どもたちのたくさんの笑顔を見ることができました。残りの任期、諸先輩方を見習いながら、一歩一歩活動に参加したいと思います。

■今枝真一庶務



全曹青庶務に任命されました。一年半が経過致し、身をおいて勉強させていただいております。また、この機会に多くの出会いもいただきました。未熟な身ですが、あと半年の任期の間、少しでもお役にたてるように精進してまいります。

■伊藤和貴庶務



震災後5月に、庶務兼災害復興支援部事務局員として参加して、なかなか急遽お話をいただき今日に至ります。災害ボランティアに関し経験は皆無でしたが、無私の利他行と捉え、宗門内外の諸先輩方のご指導の下、微力ながら活動させていただいております。復旧・復興には地域差・個人差があり、求められている支援活動も様々です。日々多様化するニーズの中で何ができるのか考えながら、会務並びに災害復興支援活動に精進してまいります。よろしくお願

写真館
SOUSEI



「老心」

撮影／万年守玄
(広報委員)

小学生を対象とした青年会の行事で、形の整っていない坐蒲がある男の子が率先して整えていた姿がとても印象的でした。この男の子の慈悲心が見える瞬間でした。

【撮影地／北海道札幌市】

【写真の募集要項】全曹青広報委員会では、皆様からの写真作品を募集しております。詳しくは下記のメールアドレスまでお問い合わせください。
photo@sousei.gr.jp 次回テーマは「大心(だいしん)」です。

■表紙の話 「食を通じて繋がる世界」

私たちが食す命の恵みや、携わった世界中の多くの人々への感謝の気持ちと、食を通じて「私」と「世界」は繋がっているという、メッセージを込めて今回の表紙を作成しました。

撮影／日山賢吾 デザイン／広瀬知哲



編集後記

先日、福島県の南相馬にボランティアで行く機会がありました。街中には一見普通の日常が存在している様ですが、少し歩を進めると、そこには時が止まったかのような光景と、生活音のまったくない、風の音だけがすり抜けて行く空間が広がっていて、虚しさを感じずには居れませんでした。

そんな中、ボランティアセンターには人々がたくさん集っていました。近くの人、遠くから来た人、定年退職した人、学生さんなどなど。そのボランティアセンターにこんな言葉が掛っていました。『できる人が できる時に できることを』この言葉を見たときに、ふと、道元禅師と老典座和尚との話を思い出しました。

私は自分のやるべきことをちゃんとやっているのだろうか、やるべきことをないがしろに、他人に任せてはいないだろうか。皆さんはどうでしょう。この『SOUSEI』も多くの人が関わり、一人ひとりが自分の役割を果たし、そしてやっと一冊の冊子になっていく。この作業に携わることができ、微力ながらもお手伝いができることに感謝しながら、自分のやるべきことをまっとう出来るようこれからも精進していこうと思えました。

(広報委員 土田真輔)

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…
どんなことでもお電話で
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464
Tel 080-1547-5646
毎週日曜 22:00～24:00
※相談料は無料(通話料は必要です)

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品



株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本 社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

全国からの願いを御奉納 今年も花まつりキャンペーン



今年度も総合企画委員会では、甘茶・コスモスの種などを同封した『花まつりセット』を頒布いたしました。総頒布数は2万8千セットと多くのご協力をいただき、全国御寺院様の当会に対する御理解の賜物と感じております。

花まつりキャンペーンでは、同封の返信塗り絵ハガキにて、お釈迦さまを鮮やかに塗り飾っていただくとともに、願文をお書きいただき両大本山へ奉納しております。

塗り絵ハガキの中にはお子さんが母と一緒に一生懸命塗ったもの、油絵具で丁寧に塗られたものなどもありました。我が子を想う母の願い、災害からの復興など、家族の平癒や世界の平和を願うとともに、思い思いに仏さまと向き合う時間を作っていただけのものこの取り組みの意義だと感じています。

さまざまな想いの詰まった絵ハガキは、9月27日に總持寺へ謹んで奉納させていただきました。残りの絵ハガキは近日中に永平寺へ奉納させていただきます。

来年度も装い新たに『花まつりキャンペーン』を実施いたします。花祭りや春彼岸会などの記念品としてご活用ください。



一本松への願いを陸前高田へ 陸前高田の松原の再生を支援する会



右端：都市計画課の方、左・中：支援する会の代表2名

陸前高田の松原の、七万本ともいわれる流木松を再利用して制作・製作いたしました御念珠や念珠ブレスレットは、『S OUSEI』155号及び156号で広告掲載させていただきました。多くのご寺院様から、亡くなられた方々のご冥福と被災地復興、高田松原の松林再生のための支援金にと、ご購入にご協力をいただいております。

お渡し出来るまとまった金額になりましたので、陸前高田の松原の再生を支援する会、代表が、去る8月21日に陸前高田市の都市計画課の方に、復興の資金としてお役立てくださいとお渡ししました。多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。陸前高田市の市街地全体は未だに原っぱの状態、復興は緒に就いたばかりといった風でした。市庁舎もプレハブの状態ですので、お渡しする場所は、あの「一本松」のところでした。

※陸前高田の松原の再生を支援する会、

■東日本事務局／創文社印刷内

〒420-0812 静岡市葵区古庄2-7-16

■お問い合わせ／090-33882-0972(海野まで)